

文庫あれこれ◆真夏日だと思つたら薄ら寒かったり、五月雨ならぬ大風雨だったり今週の空は浮気者。この雨の中を文庫の本の移動をしました。まず子どもの本は、絵本を全部新しい部屋に、読み物の棚の低学年ものを昔話の棚に、岩波少年文庫など子どもの文庫は高学年ものの棚の一番上に、というように。

◆大人の本はもっと様変わりしました。慣れるまで少し途惑われるかも知れませんが、だいぶ(幾分?)ゆったりしましたよ。◆重い本の移動から配架まで、スタッフのご主人方やおとうさんがお手伝いくださいました。男性のすばやさ、力強さに感嘆し、この国はこの方々が担ってくださったのだと、改めて世の初老の父たちに感謝したいと思いました。◆もちろん、スタッフ(奥様)あってのご主人です。◆とにもかくにも、沙羅の樹文庫は会員のみなさんのご支援で元気に存続できています。有難いことです。◆雨がふったときの絵本の部屋への移動の工夫を考えたり、まだまだ片付けねばなりません、14日開館日までには気持ちのよい読書空間にしておきたいと思つています。◆門の近くのもっこうバラが咲き始めました。わたしの好きな白です。◆今月は長くこちらにいるので、老母を連れてきました。それで、伊東市のショートステイを利用させてもらうことにしました。早速今日からお泊りの母が帰ったときの感想が楽しみです。◆21日に<子どもの本をとりまく世界と子どもと本をつなぐ人について>のお話を広瀬恒子さんにさせていただきます。この世界では全国的に著名な方です。お知らせの仕方がまずいのか、まだ申し込みが少ないです。伊東市、伊豆高原の人々はあまり関心がないのでしょうか、四角四面のお話ではなく、40年の実践を踏まえた子育てにも役立つ情報満載です。やさしい方です。軽い気持ちでお出かけください。◆と、書いた後、スタッフのNさんからNPO 絵本の家の理事長・中込さんが伊東市の図書館で、子どもを本好きにするには、というタイトルでお話くださったことが掲載された伊豆新聞をいただきました。図書館も頑張ってるじゃないと思つたが、残念ながらやはり参加者は多くないですね。がむしゃらに栄養を吸収できるのも子育てのときですよ。子どもと一緒に文庫の朝のおはなし会(読みきかせ等)を聴きにくるおかあさんおとうさん、ぜひいらしてくださいな。

◆表紙の写真、どうですか? 今月新たに入れた子どもの写真絵本『世界中のこどもたちが』です。今回、この本と、『天上を翔ける川』という写真詩集に心惹かれました。お薦めします。◆本を借りたあと子どもたちは庭に出て飛び回ります。元気がよいのは嬉しいのですが、文庫のスタッフの目は文庫内だけで手一杯です。どうぞ、ご自分の子どもさんの敷地内での外遊びには責任をお持ちくださって楽しい文庫の日を過ごせますよう、お願いします。◆続く風評被害へお互いにしっかりした気持ちで当たりたいですね。(西村)

☆これからの催し物☆

5月14日～22日 アートフェスティバル開館(詳細前号記載)

★絵本で世界を巡る展(開館中)

★若葉のころのおはなし会(大人向け)

①14日(土)17:00～19:00

★ゆったり聴こう日本の昔語り

②22日(日)16:00～17:30

★若葉のころの子どものおはなし会

22日(日)10:30～11:30(東北の語り部の昔話)

★講座<本・子ども・世界>—父母、教師、保育士、図書館員、読書ボランティアのための—

21日(土)14:00～16:00(参加費500円(震災支援に))

7月

♥海の日のおはなしかいNo.11

7月17日(日)16:00～19:00(伊豆高原駅)

♥文庫開館5周年記念子どものおはなし会 アニメーションを親子で楽しもう

7月18日(海の日)10:30～12:00/13:00～14:00

8月

◆夏休みロングオープン(8月16日～22日)

図書館を使った調べる学習賞コンクール優秀作品展

10月

♪秋の夜長のおはなし会: ゲストによる朗読・語り

10月15日(土)17:00～19:00

握手(井上ひさし)・大つごもり(樋口一葉)ほか

12月

★クリスマスお楽しみ・おはなし会(12月18日)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆6月は通常。18日(土)、19日(日)

◆7月は16日(土)、17日(日)

18日は子どものおはなし会&特別イベントのみ

◆8月は16日(火)～22日(月)10～15:00

◆9月は変則です。10日(土)、11日(日)

※文庫の時間: 土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会(おはなし・沙羅)

連絡先: 沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

No.57 2011年5月号

沙羅の樹文庫だより



篠木眞写真 ポプラ社刊

著者さん、あまりにこどもの顔・しぐさが愛らしく転載させていただきました。お許しあれ!

五月

悲しめるもののために

みどりかがやく

くるしみ生きむとするもののために

私たちが、まっとうに生きる喜びを選られますよう!

最近お借りした本についての読後感

By 森林浴

2011年5月13日

「ユーラシアの東西 中東・アフガニスタン・中国・ロシアそして日本」 杉山 正明著 日本経済新聞出版社刊 2010年12月刊

従来、西欧中心で書かれてきた世界史を、世界最大の大陸であるユーラシア大陸を中心とした発想で書き直すべく雄大な構想で取り組む京都大学の歴史家の一般向けの啓蒙書。モンゴルという歴史上世界で最大規模に展開した帝国を機軸に考えると世界の見方が変わる。貝塚茂樹・吉川幸次郎・桑原武夫・上山春平・今西錦司・梅棹忠夫・梅原猛など京都大学の人文科学者は確かにユニークな発想をし、規模雄大な構想を展開する。かつて今西・梅棹両氏が東京の学者（まあ東大の学者ということですかね）は自分のユニークな発想が乏しいと批判したというのわかる気がする。この本で現時点の世界で最も熱い注目を集める焦点、中東・アフガニスタン・中国・ロシアなどを新しい角度から見られるようになった気がした。

「ロスチャイルド家と最高のワイン 名門金融一族の権力、富、歴史」 ヨアヒム・クルツ 著 瀬野文教訳 日本経済出版社 2007年12月刊

ユダヤ・イスラエルなどの言葉を聞くとどうしても覗いてみたくなる習癖があるので、読んでみました。ただしロスチャイルド家の歴史は前半だけで、主題はロスチャイルド家の作ったワインなんです。別にワイン好きというわけではないので、後半は飛ばし読みです。ロスチャイルド家が大きくなったきっかけが時々の権力者に巧みに食い込んだ商才だったのですが、これは日本の三井・三菱などの財閥の歴史とも似通っていますね。

♥森林浴さん、いつも読みたいと思ってなかなかいつきにくい本の紹介をしていただき、有難うございます。ほかの会員さんもぜひ、紹介文をお寄せください。

新しく買った子どもの本

絵本:『のまどくん』(片山健作 文溪堂 10)『とうさん』(内田麟太郎文 つよしゆうこ絵 ポプラ社 10)『ねこのき』(長田弘さく 大橋歩絵 クレヨンハウス 96)

『うさこちゃんまほうをつかう』『ふわこおぼさんのパーティ』(ディック・ブルーナぶんえ 松岡享子やく 福音館書店 11)『ちいさなちいさなおんなのこ』(クラシロフスキー文 ニノン絵 福本友美子訳 福音館書店 11)『ようせいアリス』(デイビッド・シャノンさく 小川仁央やく 評論社 09)『ぶんぶんむしとぞう』(マーガレット・ワイズ・ブラウン作 クレメント・ハード絵 中川梨枝子訳 福音館書店 09)『まんまるおつきさまをおいにかけて』(ケビン・ヘクス作絵 小池昌代訳 福音館書店 05)※05 コルデコット賞 『グースにあった日』(キャリ・ベストぶん ホリー・ミード絵 まえざわあきえやく 福音館書店 03)『シモンのアメリカ旅行』(バーバラ・マクリントック作 福本友美子訳 あすなる書房 11)『ぼくもおにいちゃんになりたいな』(アストリッド・リンドグレーン文 イロン・ヴィークランド絵 石井登志子訳 徳間書店 11)

写真絵本(ノンフィクション):『世界中のこどもたちが』(篠木眞写真 新沢としひこ詞 ポプラ社 10)

読み物:『なんでももってる(?)男の子』(イアン・ホワイブラウ作 石垣賀子訳 すぎはらともこ絵 徳間書店 10)『きのうの夜、おとうさんがおそく帰ったそのわけは……』(市川宜子作 はたこうしろう絵 ひさかたチャイルド 10) ★以上2冊低～中学年向き

『ぼく、デイヴィッド』(エリナー・ポーター作 中村妙子訳 07)『ガラガラヘビの味 アメリカ子ども詩集』(アーサー・ビナード/木坂涼編訳 10)以上2冊 岩波少年文庫

おはなし集:『おはなしのろうそく 28』『まめたろう(おはなしのろうそく愛蔵版 10)』(東京子ども図書館)ほか

☆子どもの本の巻☆

本を選ぶとき
子どもの本は急いで新刊をいつにせよ、何冊かの書評にあたります。多くは前年の評価の高かった本、絵本からできるだけ入れたと考えます。でも最近ではテーマ性のある重い問題をかかえた本や絵本が多い気がします。高学年には問題意識を持つてほしいですが、心の底から楽しい本もほしいなと思います。
五月の催しとして絵本で世界を巡る展を企画しました。仕分けが難しく、結局出版社別の国別になってしまいました。が、外国の絵本を久しぶりに全体的に見直すことができました。(次回に続く)

新しく買った大人の本

フィクション:『いねむり先生』(伊集院静著 集英社 11)『人質の朗読会』(小川洋子著 中央公論新社 11)『あなたがいる場所』(沢木耕太郎著 新潮社 11)『なずな』(堀江敏幸著 集英社 11)『心はあなたのもとに』(村上春樹著 文藝春秋 11)『空也上人がいた』(山田太一著 朝日新聞出版 11)『十字軍物語 1、2』(塩野七生著 新潮社 10~11)

『ムーア人の最後のため息』(サルマン・ルシュディ著 寺門泰彦訳 河出書房新社 11)

ノンフィクション:『清冽-詩人茨木のり子の肖像』(後藤正治著 中央公論新社 10)※寄贈 『絵のある』岩波文庫への招待』(坂崎重盛著 芸術新聞社 11)『わたしのなかの子ども』(シビル・ウェッタシンハ著 松岡享子訳 福音館書店 11)『最後の審判を生き延びて』(劉曉波著 丸川哲史ほか訳 岩波書店 11)

『天上を翔る川』(松本司著 渡辺出版 11)※写真詩集 『フェイスブッケー 若き天才の野望』(デビッド・カークパトリック著 滑川海彦・高橋信夫編訳 日経BP社 11)

文庫:『決着』(吉原裏同心 14)(佐伯泰英著 光文社 11)※寄贈 『人類が消えた世界』(アラン・ワイズマン著 鬼沢忍訳 早川書房 09)

☆今月の子どもの本から一部紹介します。☆

『ガラガラヘビの味』:子どもといっしょに楽しんでやる詩の本。詩人であり翻訳家のアーサー・ビナード、木坂涼夫妻が編んだアメリカ子ども詩集。選ばれた詩、みんな生きてる。みんな原詩を超える訳? さいごの「あとがきにかえて」も面白いです。

『まめたろう』:『おはなしのろうそく』を2冊づつまとめた愛蔵版。寝るときに一つ。読んであげては?

『のまどくん』:いつも子どもの心で楽しい絵本を書いてくれる片山さんの本。日曜のよみきかせに、紹介します。のまどくんは何をするのかな?

『ようせいアリス』:(デイヴィッドシリーズ)の作者です。主人公アリスはりっぱなようせい?

『ぼくもおにいちゃんになりたいな』:リンドグレーンの短篇の絵本化。リンドグレーン作品をたくさん手がけているヴィークランドの絵です。おにいちゃんになりたかったぼく。でも実際におにいちゃんになると? この絵本は私の若い友人の編集なので、おすすめしちやいます。

『まんまるおつきさまをおいにかけて』ネコの表情が。